

北海道の印刷

12

第823号

2024年12月10日発行

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

北海道の難読地名

遊楽部

難読レベル

★★★★☆

冬景色の遊楽部岳（久遠郡せたな町北檜山区富里）

CONTENTS

- 3 札幌市・さっぽろ産業振興財団との業界振興に関する意見交換会開催される
- 4~7 北海道印刷関連業協議会 令和6年度第2回役員会開催される
- 7 北海道印刷関連業協議会 令和7年新年交礼会のご案内
- 8 令和7年新春経営者研修会のご案内
- 9 北海道印刷工業組合集団扱自動車保険のご案内
- 10 全印工連ライセンスプログラム「Adobe Creative Cloud」のご案内

●せたな町

遊楽部岳

北海道印刷工業組合

〒062-0003 札幌市豊平区美園3条5丁目1番15号 原ビル

TEL.011-595-8071 / FAX.011-595-8072

[Website] <https://www.print.or.jp> [E-mail] info@print.or.jp



P-00023

この印刷物は、CSRに取り組み印刷会社が製作した印刷物です。

札幌市・さっぽろ産業振興財団と 業界振興に関する意見交換会を開催

札幌商工会議所情報部会印刷分科会

札幌商工会議所情報部会印刷分科会と札幌市・さっぽろ産業振興財団との業界振興に関する意見交換会が、10月29日午前10時30分から北海道経済センターで、札幌市から渋谷洋幸経済観光局産業振興部長、一般財団法人さっぽろ産業振興財団から一橋基専務理事、印刷業界から岸昌洋印刷分科会長（北海道印刷工業組合理事長）、有原常貴（北海シーリング）・西山真（大輝印刷）・伊藤克義（北海道印刷工業組合）の各副分科会長が出席して開催された。

意 見交換会は、(1)入札制度について、(2)著作権管理について、(3)印刷業の将来展望についてをテーマに行われた。

最初に、印刷業界の要望を次のように説明した。

(1)入札制度について

札幌市の印刷業務に関する入札においては、最低制限価格制度が無いため、過剰な価格引き下げ競争が発生している。そのため、仕事が獲得できたとしても、業務内容に見合わない金額になってしまうことがある。

道の入札案件では最低制限価格制度が設けられているため、札幌市においても同様に最低制限価格の導入をお願いしたい。

(2)著作権管理について

デザインやキャラクターの著作権に対する認識の低さから、納品したデザインがクライアントによって二次利用されるケースが発生している。

これは、デザインの著作権が適切に保護されていないことを意味し、デザイナーの創作活動に大きな影響を及ぼしている。

については、デザインの著作権の重要性に関する



啓蒙支援をお願いしたい。

(3)印刷業の将来展望について

印刷業は、札幌市内製造業のなかで食料品製造業に次ぐ産業人口を有し、札幌市における重要な産業である。

しかし需要の減少に加え、資材の価格高騰や人件費上昇等に対する価格転嫁が追い付いていないことから利益が減少し、その対応が困難な局面にある。

印刷業は、クライアントから仕事を受注する業界であり、価格競争のみでは差別化が難しい現状である。

今後は、これまでのあり方にこだわらず、新たな需要の開拓が重要と考えている。

については、業界の存続および発展のため、新たなコンテンツの創出やニーズの掘り起こしに対する協力・支援をお願いしたい。

この後、各テーマについて、意見交換が行われた。

このなかで、行政側として、札幌市内の印刷会社でどのようなことができるのかを分かっていない現状であり、札幌市として若いデザイナーの養成事業を行っているので、行政と印刷業界と共催で付加価値印刷や生成AIなどの勉強会や会社見学会を開いて、デザイナーと印刷会社とのマッチングができ、新しい需要を喚起できるようお互いに協力していくこととした。

また、著作権にいても行政と業界が一緒に勉強する機会を設けていくことを検討することとした。

お客様の
「踏み出す力」になる。

価値ある情報、豊富な知見、確かな技術で。



一緒に答えを導き出す会社へ。

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社

令和7年新年交礼会開催を決定

北海道印刷関連業協議会役員会開催

北海道印刷関連業協議会は、令和6年度第2回役員会を10月29日午後5時から札幌市中央区の札幌グランドホテルで理事・監事12人が出席して開催し、令和7年新年交礼会の開催ならび運営方法を決定するとともに各団体・業界の現況について情報交換を行った。

最初に、石田雅巳副会長のあいさつの後、同氏を議長に議事に入り、令和7年新年交礼会の開催・運営方法について協議し、下記掲載のとおり開催することを決定した。

次に、各団体・業界の現況について情報交換が行われた

▶日本グラフィックサービス工業会北海道支部 渡辺辰美支部長

JAGRAはこの前の会合から北海道は特に動きがない。ただ営業の成績はかなり悪い。コロナ前の7割くらいである。一時は持ち直したがまた戻ったような状況になっている。

自費出版ネットワークという会があり自費出版文化賞を設けている。来週、東京で表彰式がある。ここに700人くらいの著者が応募する。このなかから北海道から5人が受賞した。今までになく多い受賞者である。

▶北海道印刷インキ同業会 森田稔代表幹事

印刷インキに関しては、昨今も原材料の値上げ、円安の進行が止まらないということで、かなり我々としても原材料価格には苦心している。オフセットインキは、特にインドを中心とした東南アジアで、パッケージの需要が旺盛になっており、そちらの方でのメーカーと我々との原料の買い付けで競争になって、価格については高止まりの状況が続いている。日本独特というか特有の新聞オフ輪インキについては、新聞会社の値上げ、デジタル化への移行が止まっていなく、10%



近い前年比数量ダウンが続いてるような状況である。印刷インキは、特に大都市圏において減少が止まっておらず、一部、地方の新聞、雑誌関係では前年並みを確保しているが、主戦場の首都圏・関西圏・中部圏・札幌圏は減少で厳しい状況が続いている。なかなか良い兆しが見えてきていないという状況である。

▶北海道印刷工業組合 岡部信吾副理事長

印刷工業組合としては、9月27日に全印工連フォーラムを全国から組合員が集まって、大阪で開催され、出席してきた。参加者数が400名で、これからの組合の活動方針の発表と、前田元中小企業庁長官の講演があった。今400名といったが、各地の組合員数としては減少傾向にあり、東京では業界周りの方やデザイナー等、そういったところにも声をかけて、正会員になってもらうというような取り組みを行っているという話もあった。

HOPE2024を9月に開催した。2日間で2,800名の来場があった。

北海道印刷関連業協議会 令和7年新年交礼会

日時

令和7年1月8日（水） 午後5時

会場

札幌グランドホテル

会費

13,000円

▶北海道フォーム印刷工業会 小田島秀明会長

フォームもDX、SDGs、郵便料金の値上げ、最後がランサムウェアというところで、かなり激減しているのが現状である。日本フォーム印刷工業会は、全盛期450社くらいあったが、現状97社になっている。どちらかというところとフォームに特化したところとアウトソーシングに移行しているところと二分化しているような状況である。京都のフォーム印刷会社がランサムウェアの影響を受けたことで、全国的にセキュリティ強化ということで数千万円単位で、セキュリティ投資が業界ではかかってきているというのが現状である。

▶北海道紙器段ボール箱工業組合

森川唯志理事長

当業界は、3月に突然、4月からダンボールを値上げするというので、レンゴーが発表して、各社右倣えでスタートしたが、それが全く進まなくて、漸く今頃になって足並みが揃ってきたところで、我々としては得意先に少しお願いをし始めているところである。今回の値上げは、原紙は関係なしに、我々の輸送費、労務費の値上がりについて業界独自で値上げをしていかないとやって行けないので、自社は自分で守ろうと各社がそれぞれの思惑で動いている。今まで広域、大手はなかなか決まらなかったが、買ったたき禁止などの通達があるので、広域・大手がこの時期に決まって、中小・零細のところにもお願いをし始めている。北海道は農産物の需要が大きいですが、これは1年に1回の値決めなので少し前倒しに交渉は始まるようであるが、農産物については来春と思っている。需要が前年対比98%くらいでこの3年推移しているので、需要は

伸びることはないので、経費が掛かる分はお願いしていかないとならない。

▶北海道グラフィックコミュニケーションズ工業組合
酒井紀典理事長

当社は看板業であるが、基本的には製版と写植の組合が業態を変えて存続しているみたいな状況である。基本的にはずっと低調である。最近、選挙があったので、選挙に関わったところは多少忙しかった。当組合の名称はGC北海道と略している。東京のGC連合会はセミナーを企画し全国に向けて発信している。大体Zoomが多い。来月は北海道が受け持ちになり、中央ネームプレートの社会のニーズに対応して会社を変革していったということ在全国に発信する準備を進めている。

▶北海道洋紙同業会 森田伸介会長

我々が主力としているグラフィック用紙は順調に減少していて、好転する気配は全くない。まだまだ減少は続くと思っている。全印工連が数年前に予測した20年くらいで、印刷用紙の需要が3割減る。楽観的な見方で10%減るという予測があったが、まさにどちらかという悪い予測が現実になっているというようなことで、ここ20年くらいでも3割どころのダウンではないという状況にある。製紙メーカーは生産拠点の閉鎖、統廃合、マシンを止めないまでも転用というようなことを、国内の需要がそういう状況なので積極的に行っている。代理店といわれる我々の仕入先である全国規模の大手専門商社は、海外展開を積極的に行っており、国内についてはこういう状態なので正直あまり力が入っていない。我々、府県商といわれる

紙卸商は平成元年くらいがピークの社数で800社強あったが、もう2~3年しないうちに300社を切ってくるくらいのペースで、これまた順調に減っている。もう半減以下である。そういう状況で、我々府県商は、本業の紙卸以外に不動産・物流・印刷あるいはその関連事業に活路を見出したということで事業転換を図っているというのが現実である。ということで非常に需要が良くない。このような状況は続くので知恵を絞って新しい戦略で進めていくよりないが、なかなか我々国内の府県商は、そういう方に事業転換を図れない。

▶北海道製本工業組合 石田雅巳理事長

私の方から製本業界の話をする。明るい情報を提供できればと思っていたが、そうではない話をせざるを得ない状況である。これも製本関係だけの話ではないが、今月の初めに札幌市内の出版社が倒産した。負債額が2億5,800万円であった。地場の出版業者としてはかなり破格の負債額である。北海道の出版業者はほとんど個人商店の規模のところが多い。昨年も1社廃業している。文芸書を生業として生計を立ててきたところであるが、時代の変化には抗えなく、事業継続を断念せざるを得なくなった。地域文化を正確に伝えるという志のもとに事業をされてきたと思うが、これだけ紙離れが進んで、紙で地域文化を伝えることの難しさが顕著になってきたと思う。もとより今、全国の市町村の27.7%が無書店自治体であるというように言われている。また1ヵ月に1冊も本を読まない人、電子書籍も含めてが6割以上に上るといような記事も目にした。しかし、コーチャンフォーに行ったら結構お客さんがいる。今はスマホを見るのに時間を取られて読書の時間が取れない。そういった時代の潮流に押されて本離れが進んでいると思う。私たち製本業者は、ここ2年間ほど得意先である印刷業者、印刷会社に製本料金の値上げをお願いをしてきて、一定の理解をいただいていた。諸物価・人件費等の高騰の煽りを受け、生産ロットは軒並み減少している。大ロットの定期物出版物については物にもよるが2~3割減少している状況である。この先、社会の変化、多様化を見極めて、お客様に求められている真のニーズに対応する必要がある。製本業者は来たものをそのまま造っている。もちろん正確な製品を造ることが製造業としての物づくりとしての責任であるが、こういった製本仕様でなく、こういった作り方をすると、よりニーズを満たせる、マッチングする、といった



ような提案をできるように北海道製本工業組合はなっ
ていきたい。

▶コニカミノルタジャパン株式会社

木村智弘プロフェッショナルプリント事業部 北海道グループリーダー

私からは、この時期、弊社では年賀状の事業を行っているのでその話をさせていただく。2024年の年賀状発行枚数は14億4,000万枚で、2023年度が16億7,000万枚だったので、約14%ダウンしている。切手の値段が63円から85円となり、35%ほど値上がりしているなかで、現状、弊社のお客様の受注件数は全国で大体2割から3割くらいの減少で推移をしている状況である。郵便料金の値段が上がっているので、おそらく注文数が激減するのではないか。ということは、弊社の機械が回らなくなるということで、動向を見守っている状況である。

▶富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社

畑貴史北日本支社長北海道支店長

先々週、秋田市で新聞大会という新聞業界の大会があった。さまざまな印刷のジャンルがあるが、新聞協会があって、大手紙から地域紙、北海道はブロック紙で、北海道新聞、中日新聞、西日本新聞をブロック紙といい、それ以外の各県は県紙という言い方をする。あとは町単位でもいろいろな新聞があって、新聞協会に加盟されている。秋田市で400名くらいの会合であった。会合のなかでいろいろな話題があるが、新聞も大変厳しい業界である。そのなかで我々が取引しているベンダー関係でも大きな話題があり、新聞の印刷機メーカーは東京機械と双壁で日本国内は三菱重工が新聞輪転機を造っていて、日本の新聞輪転機はほぼこの2社で賄われている。三菱重工が2036年、12年後になるが新聞輪転機のサポートを止める。販売を止めるなら、とうとうそういう時代がきたかであるが、12年後には今入れている機械のサポート止められてしまうと、ワンセットで20億円くらいするような機械

である。いくら新聞社といえども非常に痛手である。我が社は刷版を造っているのだから非常に考えさせられる話題である。ただ、我が社は、刷版のラインを、百数十億円をかけて更新する決済を親会社がしたのでまだまだ造り続ける。

▶株式会社SCREEN GPジャパン

山口典彦北海道営業所長

少し前にdrupaがあった。そこのテーマやキーワードみたいものが3つくらいあったと言われている。1つはパッケージ。もう1つはデジタル。3つ目が自動化というところがポイントだというように言われている。最近、私もそれに関連することで感じるがあったので説明させてもらう。パッケージでは、先週、東京パック2024とラベルフォーラムが、併設という形で開催された。大変盛況で、3日間で22万人来場者があった。海外からも非常に多数のお客様が来ていて、どちらかという印刷会社だけでなく、発注者のメーカーの方がたくさん来ていた。全体的に見て、やはり環境対応が一番大きなテーマなのかなということで、いろいろな溶剤レス、リサイクル、CO₂削減等がテーマであった。パッケージ業界は外から見ると元気なように見える展示会であった。デジタルと自動化は、今、我々がお客様に訪問していても人手不足の話が以前よりも非常によく聞かれるし、必ずその話になる。デジタルは、スキルレスで、誰でも使えるということでデジタル機を入れる。人がいないところを自動化することで省略化・省人化していくということが急務なのだろうと思っている。当社は京都の南の方に製造工場があるが、インクジェットがメインになるがデジタル

印刷機のショールームを作り、3日間オープンイベントを行ったが、全国から多くのお客様に集まっていた。

▶エム・ビー・エス株式会社

大場行洋札幌営業所課長

当社は富士フィルム感圧紙メーカーであるが、感圧紙・ノーカーボンの話をすると暗くなってしまうので、その話を今日はしない。今、私どもの会社はポスタープリンターという学校向けの感熱プリンターも扱っている。学校も多分に漏れず少子化、統廃合でどんどん数が減っている。我々のポスタープリンターも最盛期で全国の小中学校で大体4割6分くらいあったが、今は落ちていっている。プリンターを何か他の業種にも使えないかということで、社会福祉関係に力を入れている。大きな災害が起こると必ずボランティアセンターが各地で立ち上がる。ボランティアセンターが立ち上がるとボランティアの方がそこに集まる。その人たちに対して拡大掲示する需要が結構ある。それをペンで模造紙に夜なべしてボランティアの方が書いていた。当社のプリンターは本体にスキャナーがついていて、そこにA4の原稿を通すと最大でA0まで出せる。模造紙に書くにはすごい時間がかかるが、A4の紙に書くのはそんなに時間はかからない。最近、各会社でインクジェットのプリンターを使っているがインクが切れたら使えない。当社のプリンターは感熱紙なので紙しか入っていないので災害時に使えるので、北海道庁や県庁に訴求していきたい。CSRと連動させて売り込んでいく。

北海道印刷関連業協議会 令和7年新年交礼会のご案内

北海道印刷関連業協議会の令和7年新年交礼会が下記により開催される。

新年交礼会は、令和7年の新春に鑑み、印刷業界ならびに関連業界の皆さんが一堂に集い、参加者が活発に交流・賀詞交換等が行えるよう運営される。

記

日時	令和7年1月8日（水） 午後5時
会場	札幌グランドホテル（札幌市中央区北1条西4丁目 電話011-261-3311）
会費	13,000円

「令和7年新春経営者研修会」 開催のご案内

印刷業界での新たなソーシャルビジネスを拡大

北海道印刷工業組合は、「令和7年新春経営者研修会」を、1月8日、札幌グランドホテルで、「官公需対策セミナー」として、「印刷業界での新たなソーシャルビジネスを拡大」をテーマに開催する。

道 内中小印刷産業を取り巻く経営環境は、眼前に迫りつつある、深刻化する人手不足、事業承継問題、多様な人材育成のための人件費コストの増加、働き方改革への対応など、課題が山積している状況にあります。

加えて、3年間にわたるコロナ禍による社会・経済活動の停滞は漸く薄れつつあり、明るい兆しが見えてきていますが、コロナ禍は中小印刷産業に限らず、世の中すべての様相を一変してしまっただけで、印刷産業もその影響により、取り巻く環境が様変わりし、今後、従来型の印刷需要の先細りは否めず、生産性向上では将来を展望できず、創注・造注にシフトしていかなければならなくなっています。

このような状況下ではありますが、我々は、有益な印刷製品・サービスの提供に努め、国民生活および文化を支え、人々の暮らしを彩り幸せを創る産業として発展していかなければなりません。

政府は、昨年「中小企業者に関する国等の契約の基本方針」を閣議決定し、需給の状況、原材料および人件費等の最新の実勢価格等を踏まえた適切な予定価格の作成、低入札価格調査制度、最低制限価格制度等の適切な活用等の対策を講ずることや、中小企業官公需特定品目の発注を行うに際し、中小企業・小規模事業者の受注機会の増大を図ること、コンテンツ版バイ・ドール契約の活用を促進すること等に努めるこ

とが記されています。

これを受け、総務省においても「地方公共団体の調達における中小企業者の受注機会の確保等について」を、全国各自治体に発出し、印刷物の発注を担当する部局と、入札・契約事務を総括する部局・会計管理部局、予算執行を総括する財政担当部局等の関係部局間において必要な連携を図って、最新の実勢価格等を踏まえた適切な予定価格の作成や、低入札価格調査制度や最低制限価格制度等の適切な活用等の対策を講ずること等により中小企業・小規模印刷事業者の受注機会の増大を図り、また、受注者の知的財産権に配慮した契約やコンテンツ版バイ・ドール契約等を積極的に活用するよう対応を求めています。

そこで、今回の研修会は「官公需対策セミナー」として、全日本印刷工業組合連合会官公需対策委員長を講師に招き、公共事業への効果的なアプローチ方法、入札制度の改善提言および官公庁との関係構築のポイントを学びます。

また、官公需における発注者と受注者間の知的財産権（著作権）の認識の問題についても触れ、今後の良好な取引関係の構築について学びます。

そのうえで、印刷業界での新たなソーシャルビジネスを拡大するための経営戦略を提供します。

経営者・幹部社員様はじめ社員の皆様にも多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

日 時	令和7年1月8日（水） 14：30～16：00
会 場	札幌グランドホテル（札幌市中央区北1条西4丁目 電話011-261-3311）
テ ー マ	印刷業界での新たなソーシャルビジネスを拡大
講 師	全日本印刷工業組合連合会常務理事・官公需対策委員会委員長 山形県印刷工業組合理事長 株式会社大風印刷代表取締役 大風 亨氏
参 加 費	無 料
定 員	50人（定員になり次第締め切ります）
申 込 期 日	令和6年12月20日（金）

北海道印刷工業組合の皆さまへ

集団扱自動車保険

一般契約と比べて割安！

集団扱の分割払契約は分割割増なし。
一括払なら、一般契約の一時払に比べて5%割安です。

払込みは便利な口座振替！

初回の保険料は原則始期日から
2か月後の口座振替となります。

等級（等級別割引・割増制度）は
そのまま継承できます！

他の保険会社や、JA共済、全労済からの
切替もOKです（一部の共済を除きます）。



ご本人以外のお車でも、
下記の条件を満たすお車であればご加入いただけます！

I. 保険契約者が下記の場合

- (1) 団体の所属員（下記①～⑤のいずれかの方）
- | | |
|--------------|-----------------|
| ① 団体の役員・従業員 | ④ 団体を構成する団体の構成員 |
| ② 団体の構成員 | ⑤ 上記④の役員・従業員 |
| ③ 上記②の役員・従業員 | |
- (2) 団体自身

II. 記名被保険者・ご契約のお車の所有者が下記の場合

- ① 保険契約者またはその構成員
- ② 保険契約者の役員・従業員
- ③ 上記①・②の配偶者
- ④ 上記①・②またはその配偶者の同居の親族
- ⑤ 上記①・②またはその配偶者の別居の扶養親族

集団扱制度の概要を説明したものです。ご契約にあたっては必ず各種自動車保険パンフレットおよび「重要事項のご説明」をあわせてご覧ください。また、詳しくは「ご契約のしおり(普通保険約款・特約)」をご用意していますので、必要に応じて引受保険会社のホームページでご参照ください。もしくは、代理店・扱者または引受保険会社までご請求ください。ご不明な点につきましては、代理店・扱者または引受保険会社にお問合わせください。

■取扱代理店 お問合わせはお電話にて、お気軽にどうぞ！！

株式会社プロット 担当者：田中 春二

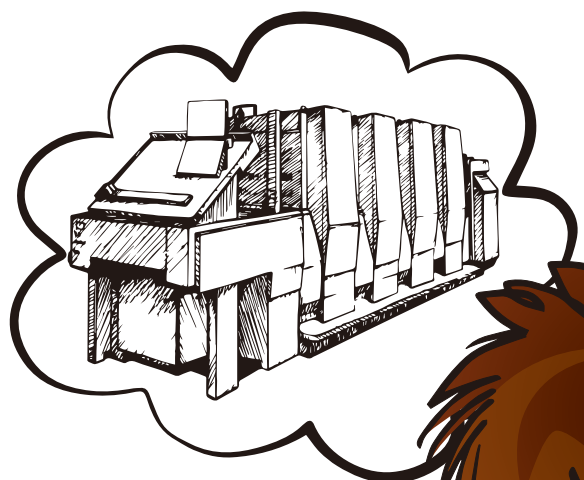
〒063-0869 札幌市西区八軒9条東4丁目1番地1
TEL: 011-700-1020 FAX: 011-700-1021

■引受保険会社

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
札幌支店 札幌第一支社

〒060-8553 札幌市北区北七条西5丁目5番3号
TEL: 011-728-1314 FAX: 011-728-1354

「好き」をする場所



おもいやこころ、
色やかたち



令和7年度生募集

電子印刷科

MONOテク札幌

北海道立札幌高等技術専門学院

〒065-0027 札幌市東区北27条東16丁目
TEL 011-781-5541 FAX 011-786-4441



印刷デザイン科

MONOテク旭川

北海道立旭川高等技術専門学院

〒078-8803 旭川市緑が丘東3条2丁目1-1
TEL 0166-65-6667 FAX 0166-65-5565



北海道の難読地名

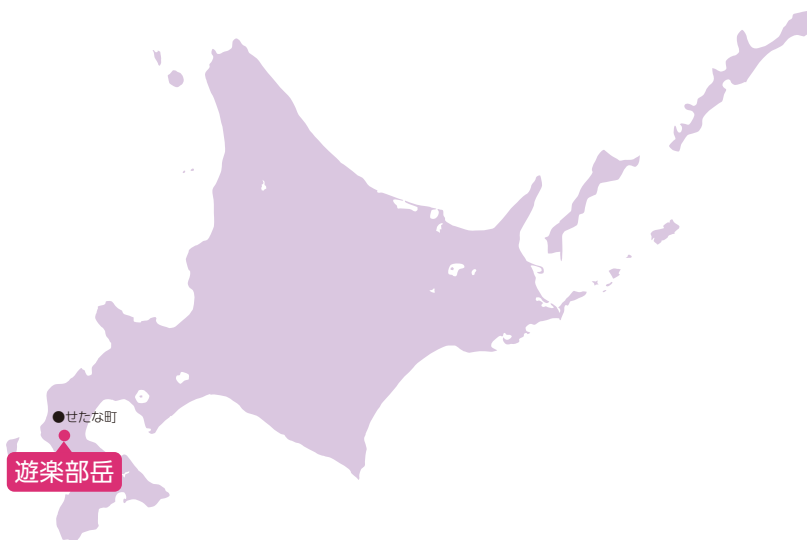
遊楽部

難読レベル

★★★★☆



冬景色の遊楽部岳（久遠郡せたな町北檜山区富里）



表紙の解説

遊楽部（ゆうらっぶ）

由来は、アイヌ語のユラプ。
「温泉が・下る」

参考資料：北海道「アイヌ語地名リスト」
https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new_timeilist.html

難読レベル

- ★★★★☆…………… 道外の方でも読める
- ★★★★☆…………… 道民のほとんどが読める
- ★★★★☆…………… 道民の半分くらいが読める
- ★★★★☆…………… 道民でもほとんど読めない
- ★★★★☆…………… 地域住民以外は読めない

※難読レベルは北海道印刷工業組合独自の基準です。